

## インターバンクの声（2016年2月15日）

欧州株式市場で債務問題が囁かれていた欧州銀行株が下落を続けたり、米小売売上高が予想を下回る結果にでもなっていれば、市場の先行き見通しも真っ暗になるようなところだったが、週末はどうか一息つける展開で取引を終えることが出来た。特にドル円などは、111円台よりさらに円高で週を終えるか、113円台に戻して終えることが出来るかで週初アジア市場のスタートにも雲泥の差が生じるころだったが、113円台に戻ってきたことで、少なくともいきなりのドル売りには少し慎重になるだろう。原油価格も石油輸出国機構（OPEC）が減産を行う可能性があるとの報道もあって、原油先物市場が一時10%超上昇し、石油関連株も上昇したことで市場に安心感を与えたようだ。もっとも、欧米の株価がともに爆騰と呼べるほどの上昇となった訳でもなく、前日まで大幅な値下がりが続いていたことによる値頃感や反動が大きかった背景もあり、さらなる原油価格の上昇や欧州金融機関の債務不安解消などが必要かも知れない。まずは春節休暇から戻る中国市場の動向チェックからのスタートだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。